

ぼくが生きてる、 ふたつの世界

伝えられない想いが
あふれます。

監督: 呉美保 主演: 吉沢亮 脚本: 港岳彦

忍足亜希子 今井彰人 ユースケ・サンタマリア 烏丸せつこ でんでん

原扶貴子 山本浩司 河合祐三 長井恵里

原作: 五十嵐大「ぼくが生きてる、ふたつの世界」(幻冬舎刊) 企画・プロデュース: 山国秀幸

製作: 「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会(ワンダーラボトリー/博覧強DYミュージック&ピクチャーズ/ギャガ/関西日本コミュニケーションズ/アイ・ビー・アイ/アミューズ/河北新報社/夏日本放送/シネマE313)

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会

©五十嵐大/幻冬舎 ©2024「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会 配給: ギャガ GAGA gaga.ne.jp/FutatsunoSekai/

母に背を向け、故郷を離れたぼく――。

繊細に紡がれる、きこえない母ときこえる息子、そしてあなたの物語。

GAGA★
GENDA GROUP



親子の物語が、そしてひとりのコーダの心の軌跡が、点描のように紡がれていく——。監督は、本作が9年ぶりの長編作品となる、『そのみにて光輝く』『きみはいい子』の呉美保。作家・五十嵐大氏の自伝的エッセイを原作に、脚本は『正欲』の港岳彦。吉沢亮が、「きこえる世界」と「きこえない世界」を行き来しながら生きる主人公を体現、自身の居場所を見出し、いく若者の心を繊細に演じた。母・明子役には、ろう者俳優として活躍する忍足亜希子。

やがて母への想いが観る者の胸にも静かに温かく満ちていく、心に響く映画が誕生した。

*コーダ：きこえない、またはきこえにくい親を持つ聴者の子供

母と息子、切なくも心に響く家族の物語

Story

宮城県の小さな港町、五十嵐家に男の子が生まれた。祖父母、両親は、「大」と名付けて誕生を喜ぶ。ほかの家庭と少しだけ違っていたのは、両親の耳がきこえないこと。幼い大に

とっては、大好きな母の“通訳”をすることも“ふつう”の楽しい日常だった。しかし次第に、周りから特別視されることに戸惑い、苛立ち、母の明るささえ疎ましくなる。心を持って余したまま20歳になり、逃げるように東京へ旅立つ大だったが……。



2025年

「ぼくが生きてる、ふたつの世界」伊達市上映会

9月23日(火・祝) 伊達市ふるさと会館MDDホール ①10:30 ②13:30 ③16:00

10月5日(日) 保原市民センター ①10:30 ②13:30

10月26日(日) 梁川小学校講堂 ①10:30 ②13:30

満席の際は次回にお回りいただくこともございます

前売券 一般・シニア・大学生 1200円

当日券 一般・シニア1500円 大学生1300円 小中高生800円

【前売券取扱所】(伊達地域)まちの駅だて (保原地域)U-プレイス伊達
(梁川地域)まちの駅やながわ 梁川中央交流館
(霊山地域)道の駅 伊達の郷りょうぜん (月舘地域)つきだて花工房
福島民報社本社・郡山本社・支社支局・販売店

【主催】映画「ぼくが生きてる、ふたつの世界」伊達市上映実行委員会 福島民報社

【後援】福島県 福島県教育委員会 福島県市長会 福島県町村会

【お問合せ】024-575-1113(伊達市秘書広報課内)

本作は、福島県と宮城県を結ぶ阿武隈急行線の車内や梁川駅でも撮影されました。

